

留萌ロータリークラブ 会報

2006▶2007
WEEKLY REPORT

会長／中川 勝美 幹事／対馬 健一



率先しよう

2006～2007年度
国際ロータリーのテーマ

留萌ロータリークラブ会長テーマ
魅力ある明るく楽しいクラブは、
ロータリーを知り、
会員家族との親睦から

No. 2258 第19回 11月22日

プログラム

- | | | | |
|-------|---|--|---------------------------|
| ●本日 | 来賓卓話「社会福祉協議会の概要」
社会福祉協議会
事務局長 大沢 貞 閑様 | ご夫人誕生日
11月26日 武井 宏子
11月27日 渡邊 順子 | 特別慶祝(金婚式)
11月23日 深瀬 晏男 |
| ●次週予定 | 年次総会 | 結婚記念日
11月23日 原田 功
11月23日 深瀬 晏男 | |

出席委員会報告

前例会

会員総数.....51名
出免会員.....8名
欠席会員.....12名
出席率..... 72.09%

前々回

第16回 10月25日

欠席会員.....10名
メイクアップ.....2名
修正出席率..... 81.40%

例会／毎週水曜 12:15～13:15 留萌産業会館2F

会長報告

- 新聞で見られた会員もいらっしゃると思いますが、この度明澤正樹会員が10月29日に札幌のホテルに於いて、調理士功勞により北海道社会貢献賞の表彰をお受けになりました。クラブ慶弔内規によりお祝いをお渡しいたします。
- 先週の例会終了後、社会奉仕委員会のふれあい農園の収穫には多数の会員のお手伝いをいただきありがとうございました。収穫された大根、キャベツ、白菜を介護施設七福神にお届けいたしました。
- 留萌駐屯地音楽隊の演奏会が11日(土)午後1時開場、午後2時開演にて開催されます。クラブでは5名の出席申し込みをしておりますので、参加される会員さんは私の所まで連絡して下さい。整理券がございます。

- 来週15日の例会は定款第5条第1節C項にて休会です。お間違えのないように。
- 先週例会で幹事より報告がございましたが、22日の例会は産館が使用出来ないため、消費生活センターに変更になります。SAA並びに親睦活動委員会の皆様移動例会の準備よろしくお祈いします。



 幹事報告

- 1) 次週例会は定款第5条第1節C項により休会。
- 2) 2005年~06年度活動報告書が出来上がり、前年度幹事の二ノ宮会員より皆様に配付するように依頼がありました。皆様に配付いたします。
- 3) 2005年~06年度地区要覧が届きました。前年度地区委員の田中会員と前年度クラブ会長の河部会員にお渡しいたします。

例会及び日時変更

- ・深川RC 11月28日の例会は夜間例会に変更。

会報受領先

- ・妹背牛RC 今年度 12号 ~ 15号
- ・羽幌RC 1330号 ~ 1333号
- ・深川RC 2330号 ~ 2334号

 委員会報告

社会奉仕委員会 清水委員長
 先週の例会終了後にロータリーふれあい農園での収穫が行われました。15名の会員さんが参加されて無事終了いたしました。大根や白菜などがたくさん取れましたので、老人介護施設七福神に会長と寄付してきました。参加された会員さんありがとうございました。

親睦活動委員会 明澤委員長
 皆様には既にFAXにてお知らせ致しておりますが、委員会の大きなイベント行事でもある「年忘れ家族会」が12月6日に開催されます。ただいま皆様の出欠確認を致しておりますので、11月15日までにご返事を頂きたいと思っております。委員会全員で楽しい家族会にする様に頑張ってお企画しておりますので、多数の参加をお願いします。

 3分間情報

情報委員会 行徳副委員長
 [ミニ情報]

10月26日、元プロレスラー「大木金太郎」氏が韓国ソウル市内の病院で亡くなりました。本名「金一」キム・イル77歳。

力道山に憧れ昭和33年、漁船にて密入国。ジャイアント馬場、アントニオ猪木等とのリングでの活躍はファンを熱く興奮させました。相手の頭を掴み、片足を大きく上げて全体重をのせた「原爆頭突き」を得意技とするも、首をいたため昭和56年引退帰国。その後遺症からか、ここ10年程は慢性的な頭痛や高血圧、糖尿病、静脈瘤等を患い入院生活を送っていたそうです。テレビでは小兵に見えましたが、現役時身長185cm、体重120kgあったそうです。昭和がまた一つ遠くなりました。

 ニコニコBOX

- ・先週のロータリーふれあい農園収穫のお手伝いありがとうございました 会報に写真載りました 中川会長
- ・北海道社会貢献賞をいただきました 明澤会員
- ・ロータリー農園よりたくさん大根をいただきました 会長より写真いただきました 齋藤会員
- ・ふれあい農園より野菜いただきました 平間、西田会員
- ・ふれあい農園より野菜いただきました 会長から写真いただきました 渡邊会員
- ・会長より写真いただきました 越野会員
- ・野菜をたくさんいただきました 西谷(英)会員
- ・また出席が可能になりました 笠原会員
- ・遠藤会員から写真をいただきました 森(幹)会員

前 回	507,000円
今 回	30,000円
累 計	537,000円

プログラム……………

「中心街地の空き店舗対策」

あずましや店主 森 義和様

私たちは小さな街・留萌に住んでいますが、この2万6千人しかいない小さな街は日本国政府・北海道・市と三つ全ての行政機関がそろって非常に特殊な地域になっています。また、公的職員の割合が資本主義社会では世界的にも例を見ないほど高い地域になっています。それだけに、政治の良し悪しで私達の生活が左右されてしまいます。素晴らしい自然や食材があふれている留萌でも行政という意味では非常に悪く、先進諸国の地方自治の中でも最悪の部類に入ります。わかりやすい例を挙げれば、留萌市には空き店舗が蔓延しています。いや、それは他の街でも同じではないかとおっしゃる人もいます。しかし、生協が新店舗をオープンして以来、旧あかしゃ薬局の小さな八百屋が撤退、ラルズ内のスーパーが撤退、ベスト電器前の八百屋が撤退、そして高田superが撤退し、商店街から中央スーパーを除くすべての店舗が撤退することになりました。ここまでなった例は戦争を除き、世界のどこの事例にもありません。これは、市役所が生協に市有地を販売したことに起因します。

ところが、空店舗対策はこの町でも行われていますし、わが国政府も赤字を抱え、北海道も赤字を抱えているので赤字という単語に親近感があるせいで、留萌市政が世界的にも例がないほどの非常に深刻な状況にあることが理解されていないような気がします。

政府の赤字を擁護するわけではないのですが、わが国の赤字は対外債務ではありませんし、先進諸国の中ではダントツに国有資産を有する国家です。その赤字と留萌の赤字はまったく質が違い、同列に論じてはなりません。わが国が赤字だからといって留萌が赤字になってよい理由は無いのです。

さて、本日は僭越ではありますが、私の三年



半の空店舗対策をみなさんの前で話したいと思っています。

平成14年に空き店舗対策としてオプトメガネの土田さんが中心となり、あずまし屋というチャレンジショップが行われました。このチャレンジショップは空き店舗を小分けにすることにより家賃や改装費などのイニシャルコストを割り勘にすることで、開店にかかる費用を極力下げてオープンにこぎつけるという手法です。

多くの方がこのチャレンジショップの中で商売を行いました。補助金が切れた時点で再び空き店舗になってしまいました。私の見た限りではチャレンジショップという手法も商品の質も量も非常に優れているため不思議でした。そこで、よく調査すると、留萌市の場合には市民の購買力が全体に著しく低下しているため、冬の間の出足の鈍さを考えると一年間のトータルでは赤字になることがわかりました。

また、支庁職員と開発局の人たちのほとんどが単身赴任で、金曜日の夕方から月曜日の朝まで留萌にいなくなるということも知りました。就労人口の三割が、肝心なめのお財布は都会におきっぱなしで、四泊我慢してすぐに帰るといった方法がとられている以上は、このようなチャレンジショップといえども成功するわけはありません。

そのため、私は空き店舗対策として、漫画喫茶を運営することを提案しました。留萌は、一軒家が多く、大学がありませんので多くの学生が実家に漫画を残して都会で生活しております。私はそのマンガを無償で譲っていただき、イニシャルコストを極限まで下げたわけです。また、

娯楽性が高いマンガを利用することによって、ボランティアで店番をしてくれる人をさがすこともできます。

漫画喫茶は、いた時間でお金をいただくシステムです。例えば、一時間いたら300円、二時間いたら600円などと、時間ごとに料金を支払います。オーソドックスなスタイルはジュースなどが飲み放題で、パソコンやマンガが読み放題というシステムになっています。

当初、インターネットが普及してしまうと漫画喫茶はだめになると注意され、僕もしばしば不安になりました。ところが、インターネットが普及すればするほどいつでもメールやインターネットを使用したい人が増え、例えば、旅行中などでもネットを利用しメールチェックをしたい人が訪れたりしています。

漫画喫茶で店番をすることは、私のボランティア活動の一つですからどのような名目でも賃金に相当するようものはもらってはいません。漫画喫茶として再オープンしてからは、補助金などももらったことはありません。

漫画喫茶の利用料金は、新しいマンガの購入や光熱費などに充当されます。家賃などは赤字になりますので、その分は私がニッター商事からもらえる給料でまかっています。

漫画喫茶の中では、留萌ブログというホームページを作っています。留萌ブログで取り上げる記事は、例えばネコがいなくなったとか、新しい病院がオープンしたとか留萌に関係するさまざまな出来事が掲載されています。本年は、ニュース部門の中で4月5月の二ヶ月間で全国一位になり、ブログ全体の中でも15位にはいりました。いささかでも、留萌という知名度アップに貢献でき、光栄に思っております。

留萌ブログはパソコンでも記事がかけられるのですが、ケータイで記事を書くことが多いのです。例えば、いまこの場ででも記事を書くことが可能です。ぜんぜん難しくありません。ケータイでメールを書ける方であればどなたでも書くことが可能です。ぜひみなさんも、ブログ作りに挑戦してみてください。そのためにも、ぜひ漫画喫茶に足を踏み入れてください。

マンガは娯楽性の高いもので、しばしば勉強の敵などのように言われてしまいます。しかし、勉強しない子供が悪いのでありマンガは悪くありません。漫画は資源の無い国のわが国にとって重要な国家戦略物資になっています。これらをコンテンツビジネスとって、政府はさまざまな方法で保護をしています。しかし、肝心の国民がマンガを軽くみていると、外国ではどんどん複製されて外貨獲得が不可能になります。ぜひとも、漫画という高い娯楽文化に一目おいただけのようにお願いしたいと思います。

さて、私は商売人です。このように毎日毎日ボランティア活動ができるのもニッター商事あってのことです。商売人は勝ち負けの世界ですから、私と同じようにこの場に立った後に、不況の波にさらわれて留萌から消えていった人もいるのではないかと思います。しかし、空店舗をなさないと思えば若い人たちに、こういう街の姿は極力見せたくないという私の着眼点と、実際に三年半毎日コツコツと空き店舗対策をやってきたという実績は商売の勝ち負けにかかわらず決して消えるものではありません。本日は、この三年半の活動を持って尊敬するロータリアンのみなさんの前で”I serve”と声高らかに発言させていただきます。

三年半のボランティア活動を真剣にやってみて、いま振り返ったときには留萌駅がとても明るくなったと私は考えております。サトウタイキさんが、やはり空店舗を利用してFMもえるを立ち上げました。漫画にしても、FMにしても非常に娯楽的な要素が高いものですが、このような輪が少しずつ広がって、お宝堂というリサイクルショップや古着屋、また田中青果さんの新社屋完成など留萌駅前がとてもあかるくなりました。音楽やインターネット、漫画といった娯楽要素の強いものを組み入れるのは閉塞感が蔓延している留萌には適切な方法であったと思っています。